

第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）に対する パブリックコメントの取りまとめ結果について

1. 実施期間等

- (1) 募集期間：令和5年2月17日(金)から3月10日(金)まで
- (2) 計画案の公開場所
- 伊豆の国市ホームページ
 - 伊豆の国市社会福祉協議会ホームページ
 - 伊豆の国市役所 社会福祉課 窓口（伊豆の国市役所 大仁庁舎内）
 - 伊豆の国市社会福祉協議会 窓口（韮山福祉・保健センター内）
- (3) 意見の提出方法：持参、郵送、FAX、メール

2. 提出件数

3件（意見数15）

3. 提出されたご意見と市の考え方

目次		
	ご意見	市の考え方
1	各節が抜けている部分があり、フォントにバラつきがあるのでそろえるとよいと思います。	誤植となっていました。修正しました。
第2章 市の地域福祉を取り巻く現状と課題		
	ご意見	市の考え方
2	第2節子どもの状況(2)～(5)はまとめた方がよいと思います。認定こども園については世間の認識がまだ乏しく、こども園というのは遊園地？という高齢者の声や疑問の声を新聞報道で見たことがあります。認知が足りないため、わかりやすくしてもらいたいです。→代替案としては、例：(2)令和4年保育認定園児数 私立558 公立307 合計865（保育所園児数及び認定こども園2・3号認定園児数）。(3)令和4年教育認定園児数 私立31 公立360 合計391。(幼稚園児数及び認定こども園1号認定園児数) 保育865（69%）：教育391（31%）：無園児（若干数）■このように平成30年から表記すれば、教育に対して保育子育てニーズの高まりが容易に見て取れます。この例でもっと詳しく言えば、第1節(2)年少人口がH30→R4で542人減っているのに、2節(2)保育認定園児数は	いただいたご意見を踏まえ、第2節子どもの状況についての表記を一部修正しました。

	H30年924→R4年865で-8しか減っておらず、2節(3)幼稚園(教育園児数)はH30年546→R4年360で-186。保育・教育のニーズ格差は明らかです。→現状と同時に課題が瞬時に想起できる表示方式を求めます。	
3	無園児(乳幼児健診未受診者、未就園児、未就学児など)の状況確認をした実施結果が福祉子ども相談センターにあると思うので、個人情報及び無園児保護者の心象にも配慮しつつ、2節のどこかに挿入した方が良いと思います。フリースクール、オルタナティブスクールなどのワードも組み込むとなおいいかと思えます。	無園児については、地域福祉計画ではなく、分野計画である「子ども子育て支援事業計画・次世代育成支援行動計画」の中で検討していきます。
4	Q5で提案した通り、無園児がいるということをも6ページで表記すれば、待機児童についても表示が必要となります。33ページで待機児童数が0とありますが、きょうだいで通っている園が違う場合が多々あり、それが理由の一つで送迎車内に我が子を置き去りにしてしまった保護者のニュースが昨年ありました。ただ単に受け皿があるということは安易に解決とは言えません。→まちづくり市民アンケート等で「希望する園に入れているか」「学区と同地区の保育所を利用できているか」を調査すれば、いかに伊豆の国市の人口分布と保育施設の配置及び入所定員にミスマッチ(現状と課題)があるかが分かるはずですが、大変恐縮ながら、策定委員会委員の中で子育て環境の状況に明るい方はどの程度いらっしゃるのか疑問に思います。	待機児童のとらえ方については、国の基準に従いカウントしております。 ご意見として承り、アンケートの取り方や無園児については分野計画である「子ども子育て支援事業計画・次世代育成支援行動計画」策定の際に検討していきます。
5	4節(3)で118.8%という数値を表示するのであれば、(2)の18歳未満の増加についても倍率(174.2%)を明記するとよいと思います。また(2)のうち、18歳未満のH30→R4の数値と傾向については、重複したとしても2節(8)きららか利用者数の前後あたりに乗せるとより訴求力が高まります。子ども、高齢者、障がい者とページや節を分けるから、状況と課題が見えづらくなります。誰一人取り残さないのであれば、子どもの状況のページに障がい児を入れてもらいたいです。	頂いたご意見を踏まえ、増加率を記載し、説明文を修正しました。 子どもの状況の表記については、ご意見として承り、アンケートの取り方や無園児については分野計画である「子ども子育て支援事業計画・次世代育成支援行動計画」策定の際に検討していきます。

6	表示している表の最小値と最大値が1～5ではないため、よく読まないと数値の印象がわからないと思います。平均値ラインが示す意味と、それぞれの座標の点が織りなす意味が不明瞭だと思います。	ポートフォリオ分析の結果表記につきましては、いろいろと検討した結果、このような表記とさせていただきます。
7	全体的にもっとわかりやすい表示法はないか検討してほしい。Q3と同様、平均値の意味がわからない。19ページについては表示枠の最大値と最小値がちがうので、印象が他のものと違うはずだと思います。最大値と最小値は1～5でいいと思います。	ポートフォリオ分析の結果表記につきましては、いろいろと検討した結果、このような表記とさせていただきます。
8	この設問で聞きたいことは何なのか疑問を持ちます。障がい児保育を行うものとして、こういった設問が世に出ること自体が配慮の無さと受け止めています。まちづくり市民アンケートのあり方・進め方、設問の作り方について、今後相当の議論が必要と思いました。	ご意見として承り、今後のアンケート項目設定の際に検討してまいります。
9	所属している団体の「所属」とは何か。子育て世代に関わる団体に公立幼稚園保育園職員がいて、私立の職員が入っていないのはなぜか。民生委員の意見が全体の24%を占める結果になっていることに疑問を持っています。27ページの年齢も50代以上に相当偏っていて、公平な意見が集まっているとは感じられないと思っています。	ご意見として承り、今後のアンケート実施の際に検討してまいります。
第4章 具体的な取組み		
	ご意見	市の考え方
10	「未来を担う子ども」「生きづらさを抱える障がい者」とあるが、決めつけてもらいたくないと思います。「障がい＝全員が生きづらい」という認識（無意識に行う差別意識）を与える表現は変えてもらいたい。47ページの【主な取り組み事業】などにも見えるが、認定こども園、障がい児保育など入れてもらいたいです。	頂いたご意見を踏まえ、修正しました。
11	45ページの取組事業に「保護司と中学生の交流を通じて更生保護についての理解を深める」を	頂いたご意見を踏まえ、修正しました。

	追加してほしい	
12	52 ページの【行政が取り組むこと】の「保護司や更生保護女性会等と連携し、～」の保護司⇒保護司会に修正してほしい	頂いたご意見を踏まえ、修正しました。
13	53 ページの【主な取組事業】の「青少年育成会、青少年問題協議会～」に下校時の見守りを追加してほしい	青少年育成会、青少年問題協議会、地域学校協働本部では、下校時の見守り以外にも取り組み事業があります。表現について検討し一部修正しました。

(2) その他のご意見

	ご意見	市の考え方
14	町屋のサロンに参加していて、高齢者だけでなく、それぞれの世代でサロンのようなものがあるといいなあ、と思います。そして、たまに異世代交流的に、合同で集まるとか（町屋のサロンのように）あるといいです。	ご意見として承り、事業実施について検討してまいります。なお、P52【生きがいつくり健康づくりの促進】における社会福祉協議会の【主な取組事業】にある多世代交流事業は、幼児から高齢者までを対象として実施しています。
15	地域の活動（計画書では、いろいろありそうだけど）がみえてこない。地区ごとの活動状況がわかると、参加もしやすい。	頂いたご意見を踏まえ、関連資料に居場所等の一覧を追加しました。